



Title	村落と都市の研究
Author(s)	鈴木, 栄太郎
Issue Date	1966
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/77304
Type	manuscript
Note	資料作成年不明（システムの制約のため、発行日には没年を入力した）
File Information	K017_013.pdf



[Instructions for use](#)

研究手帳

45

NOTE BOOK

MADE BY CHYOGA NOTE CO. LTD.
USED SUPERFINE FOOLSCAP MANUFACTURED IN JAPAN

村落と都市の研究 II

十、 都市の発展
地帯の形成と近郊



30 SHEETS

一 都多の宗族

一 地区の形成と近隣

徳知の時了りたきれり此方のを摸の
路いつきし知し小へ所を。徳は二、
いは徳以上のもなし徳以下のもなし。
都市の生活本旅のつは歌をわいとも
ちいもの、あかの、かく草の打人、あか
身へた旅人が徳である。余りにし
強固な持たしに打けり社会生活の物質
下か、脱出時の身軽さを記ししん
心後である。

平生の徳が時学的な徳にも社会的
左のしほくまわす小へ所、拓地の
生活とそんな生活の徳をわしし
徳のない旅人「子」生活し、所よりまわす
都市とか対照的の考へ、「子」徳を
あ、都市は果して徳か、あか、
旅人との徳をまうとあ、りか。

宋よりと書史に記す所の片も病人と
老人の学齡以下は史を以て大伴
宋歴にあつて主婦の世話を為し、片も
か他は皆職事人なりし、片も女
に在りし、片も。
然るは正考な市民の一日の生活の場
所とし、片も、宋歴の外に
は職事と云ふのみあり。
職事と云ふとはその職階の異なるを
わたりし、片も、
斯く記す所し、片も、
学齡期の青年の男子の学齡の分り
はそれか職事に在りし、片も、
片も、
片も、

な城域もある。宗族の如く親和し
協力して片々存を飛揚もあふ。それ
は多し物産おきあつた上かゝの井の子居
の外に成陸の深くをほつと居る
今も存するに云つて片也。

かくこの如く職地におく人の
同族は都市の郊外に居る甚だ
甚だ又の同族にはなく、村舎にお
けし、其人は同族の近しいもの
は、いふ所、かくして、いふ所、
なり、互に、いふ所、いふ所、
相互に物産の共同、いふ所、
感性的

の考れも左右も知り彼を管轄す
る考れも是れに彼を批新す

るの職域における御人あり

御は其考れを御人のあり

る物事さかへり。職域は都

の海の中にあらざる島々あり

職域未ゆを批を宋庭に

述べては為れんついで

様と云いわつてあり。

大や梅の職域又は宋庭

久あふ宋庭が宋庭並存

よりよりそをか新すあり。

身國に存すは是れは是れ又物をも感ずる
正考なるもくの身國は各々人をも正考
化し是れ物化して是れ何れも身國に
し然る宗祇に存し是れ存すは是れ
霜林片下不足の正考は是れ正考
城に村在ぬは是れ正考は是れ正考
如何ん犯回中と存すは是れ正考は
身國に存すは是れは是れ又物をも感ずる
正考なるもくの身國は各々人をも正考
化し是れ物化して是れ何れも身國に
し然る宗祇に存し是れ存すは是れ
霜林片下不足の正考は是れ正考
城に村在ぬは是れ正考は是れ正考
如何ん犯回中と存すは是れ正考は
身國に存すは是れは是れ又物をも感ずる
正考なるもくの身國は各々人をも正考
化し是れ物化して是れ何れも身國に
し然る宗祇に存し是れ存すは是れ
霜林片下不足の正考は是れ正考
城に村在ぬは是れ正考は是れ正考
如何ん犯回中と存すは是れ正考は

〜

A 生活共同作としての家族

B 職場としての家族

生活共同作としての家族

一、家族としてのあり (家族あり) 宗族内

一、家庭的としてのあり (使用人あり) 宗族内

一、純粋としてのあり (使用人の外) 宗族外

共同生活としてのあり (生活共同作) 宗族内

一、宗族共同作としてのあり (宗族あり) 宗族内

一、職場共同作としてのあり (職場あり) 宗族内

一、同居共同作としてのあり (同居あり) 宗族内

三、異居共同作

都市の都市世界構成

Lomin: Rural Social Systems

P. 111-119

C 都市の家族

一般に世帯と呼ぶものは、生活共同作のほかに、

生活共同作としての生活共同作のほかに、生活共同作である

生活共同作である。

人は、生活共同作としての生活共同作である。その

生活共同作としての生活共同作である。その生活共同作

生活共同作としての生活共同作である。その生活共同作

生活共同作としての生活共同作である。その生活共同作

生活共同作としての生活共同作である。その生活共同作

生活共同作としての生活共同作である。その生活共同作

生活共同作としての生活共同作である。その生活共同作

生活共同作としての生活共同作である。その生活共同作

生活共同作としての生活共同作である。その生活共同作

生活共同作としての生活共同作である。その生活共同作

生活共同作としての生活共同作である。その生活共同作

生活共同作としての生活共同作である。その生活共同作

生活共同作としての生活共同作である。その生活共同作

都市の

「一九三〇」既婚の九人の婦人の中一人は

宗座外の有物を鞆にこめてみる。

マスト P.423

世帯は宗族より成り立つる土木業の大工

を以ては宗族は食料^も住居^も共にする。故

に皆も満足して暮らす。よきよきである。

世帯を苦しい待たしは不満である。

生活のゆき来は余儀なくす。ゆき来は

心即ち生活。ゆき来は生活計をたす。

方格にたすはゆき来を意図する。それ

職業上のゆき来に於ては。

都市に於ては

宗族は職業上のゆき来からその習性

に於ては色んな不正あり。余儀なくさ

る。ゆき来は一宗族の互は皆協力して

ゆき来は全宗族の者と共に共同生活

を以て皆職業も共にする。計画も

宗族の各自の天知ん意に協力する。

そして綴入らしきものも其同の録物本判
すしよ。

子に幼少より母一字の生業に慣らし小
者有らし生業は自かす世徳にあり、
其子に幼少より母一字の生業に慣らし小
者有らし生業は自かす世徳にあり、

都子にありしは後來宗家の世徳に
ありしなく、さき宗族にありし徳に
はよりあり。

然し都子にありし宗族に夫婦宗族に
変化させしやうと新編ししもの力は色
の牙向に改めしなり。

都子宗家の存在を認めなきは、
其を生かすことには、自由主義者他人
を宗族に改めし其のたがひの幾多の
也新編も、都市にありしは、宗族の
存続を危殆たしむる虞あり。

とし、その後の教育の幾つかの後半に
職場や職の定文化を結果として、
古い宗族生活は益々弱くなる。近世を
原つと移る。而してこれ等の定文化
は近代文化と共に進歩するものであつた。
都市部から又都市部を中へして起つて
の二ある。

而して宗族の共同生活の一貫物である。
都市部にもその共同生活の軌跡を認め、
宗族共同生活の体が見え、
宗族の中にも多岐を有する。如きものが在
る。それは宗族として仕事人、
高学又は宗族の振へては、
振へて見れば。

然し、宗族が大きく、
は新文化を失ふ。宗族は、
その体より完全な、
分

三、次、子業の中心家務の協力は無く
有るべきに非ず ^{主人} 家務の中心は
他の宗人は子業には従はずし存
いか、仕事場と宗族は同一又
は近接し片は為保同人業と
宗族の親和の如しなり也。

四、次、身は主人の所なり其の業に從
し他の宗族は完全し元子業す
隔絶ししる也。之が都市の如く
多くとすべし。

以上は子等の親である御方の地位を以て
言ふ、保甲人の側より之を以て多難に
有らぬ。市民の中大抵を以ては
保甲人としての地位である。此場合には
次の二つの場合を考へて置く。

一、家族の中主人一人が或る子等の
所に勤勞する場合

二、家族の中主人の外他の家族
の何人かはその中に勤勞する
所に勤勞する場合

右の二種は古くは家族の縮減を以てし
家族構成の相違に因りてつく場合
と考へらる。夫婦は其の二種の

場合、女をうけたか、此レ、男ニの場合ハ
ゆゑかんやか、夫婦字社の登見す
其在予也、およ、もつてある。

今、朝市の家、社の大、り、か、に、れ、は、父
子、之、子、皆、新、の、職、場、に、居、る、を、
あ、ら、う、の、氣、持、可、能、の、者、ニ、人、以、上、を
言、ふ、宗、族、に、お、い、二、人、以、上、の、字、様
が、同、一、の、職、場、に、居、る、は、合、合、は、案、一、
稀、い、あ、ら、う。と、ま、あ、ら、は、西、洋、中、東
概、ん、お、い、二、三、以、上、の、夫、婦、が、一、世、帯、
を、な、す、り、が、~~世~~世、帯、ま、ま、大、さ、け、ら、れ、
片、に、お、い、二、人、以、上、の、有、職、宗、族、の、
同、一、の、職、場、に、居、る、は、あ、ま、大、さ、け、ら、
れ、~~世~~世、帯、ま、ま、大、さ、け、ら、れ、は、な、一、か。

つぎに職を打つね、犯め成り人して

東洋は子供は我々同士の職人

あり。これを築き、あしと素帯あしと

と同一するはゆゑ、人往してなへとも

我々同一の職人、あしとゆゑ、あしと

遊けやうとする。あしとゆゑ、あしと

私々の指をまより、あしとゆゑ、あしと

は我々の恩恵を考へん、あしとゆゑ、あしと

大きいのはないか。夫婦、あしとゆゑ、あしと

の一般の宗祇型と、あしとゆゑ、あしと

能く、あしとゆゑ、あしとゆゑ、あしと

ない。

あしとゆゑ、あしとゆゑ、あしとゆゑ、あしと

集中的となる。巨大な宗祇となる。あしとゆゑ、あしと

あしとゆゑ、あしとゆゑ、あしとゆゑ、あしと

院のよんはカ抛擲の弦を伝へ或の程に

どうしてもしゆるまてはな一のか。大御平は

アバートか、如何に好まうましても在るす

わをま向は揚へは種目に射しては、どうして

もアをまむたへのか。タムッヤヤ切半を

かは一主の向もうも聖の〜と在るす

かアをまむたへ。野草、生りま、マッテ

は〜ッりの乱を〜も然り。お抛擲在る

作は一主の乱を〜おり〜是廿アをまむたへ

し無^レ初^レ小ぬ。高き

細し大和棹の〜ま作に学術技能か

以そのるん。作の字を傳へす。高擲を

D. 地区の形成と近隣

都市の近隣同の訪問を繰り返すの形
このとして、キリスト教が
キリストの教義の pp. 284-287 参照
都市の近隣についての論議は
都市の近隣同の訪問を繰り返すの形
このとして、キリスト教が
キリストの教義の pp. 284-287 参照
都市の近隣についての論議は

都市の近隣同の存在及設定に
いはば従来は自由な拂出し
地区形成の形をとりつては
文化多岐性はその生活の総合的
素直な形から甲地区の文化
多岐性はその生活の総合的
素直な形から甲地区の文化

文化多岐性はその生活の総合的
素直な形から甲地区の文化
多岐性はその生活の総合的
素直な形から甲地区の文化

文化多岐性はその生活の総合的
素直な形から甲地区の文化
多岐性はその生活の総合的
素直な形から甲地区の文化

地区を区別つけようとするのは職場の位置である。

- 一、工場街
- 一、高層ビル街
- 一、百貨店街
- 一、銀行街
- 一、学校街

居住の基づく地である

- 一、工業住宅街
- 一、中流住宅街
- 一、高級住宅街

右の二種を公共住宅(公園停車場、超歩道)と三大要素として其配列を考へる。のが都市計画と云ふ。

所々

それはどうも職場の種類による地

位である。一層の職業に於ける一九の

地位にあるとはその職業のよにも

そのよき職業をいふ。

故に同種又は同種以上の職業の集

まつる所をいふ。又はかくの如き職

業の同種以上の地位の

集積の先の住居の集積をいふ。

この所は自ら一層の生活の中心

をいふ。少敷の集積をいふ。

このよきと云ふは其間をいふ。

居住地区、官庁街、勤労人

" Small localities in official country people live and farmers each other by their first names are neighborhood

Lynne Smith: Sociology of Rural Life, p. 331

他人名 (宗玄印) の紹介、この範囲
地名 (徳村) の紹介、この範囲、

地位名 (村出) の紹介、この範囲、
職、地名 (下野) の紹介、この範囲、

村名、地名 (何村の人) の紹介、この範囲

と云ふは云々の地色に紹介を流す事

の村に云々、云々。知し云々は云々の

地色に紹介を流すは云々職名の

紹介を流すの延長に云々を云々

地色に紹介、紹介を流す一に流す

物あり云々の片を流す云々の云

は云々職名の紹介を云々云々

云々の云々の云々

都市に云々近隣に集まる云々の

云々同様に云々の云々の云々の

の拘束力をもつ云々の。都市の

社会性等は云々の云々の云々の

のしよめかたつてんがてきよ。

新市に在る生活態度を松をす。一の
のやほは、その近隣の各物おれ
てきよ。おれに比し早の字の定
同の区高は新市は甚だ密に
し。片。アハ。にはあはれ一
てきよ。いし物。てきよの区高
はおれに比し比移のり。比較
い。

新市に在るにはおれは同人の
かお建のり。てきよ。か生活は
近隣のり。おれは同人のり。か
おれは同人のり。おれは同人のり。